

道路陥没予防へ 空洞調査実施

山越＝名古屋市の
下水処理施設内で

山越（相澤宏暢社長）

は、名古屋市内の下水処理施設内で、道路陥没予防の空洞調査を行った。写真。道路延長2766㍍を7測線で調査するため、調査延長は道路延長の7倍の1万9362㍍。処理場内は常



時、大型の土砂運搬車両が走行し場内通路の損傷が大きいため、空洞調査を実施することとなった。

調査方法は、1次調査として、調査車両に搭載された地中レーダーから地中に向けてマイクロ波を照射し、その反射波を分析することで土中の状態を確認。2次調査は、手押し式の小型レーダーを使用して空洞の位置、大きさなどの詳細調査を行い、空洞の可能性が高いと判定された箇所は直径5㍍程度の穴を開けボーリングを実施、掘削孔

にカメラを挿入し、映像で空洞の有無や土砂のゆるみ具合などを確認する。道路陥没は、2015年度は全国で3300件ほど発生し、そのうち名古屋市内は約200件。名古屋市上下水道局が事後対応から予防保全型の維持管理体制に移行した1981年度の陥没件数と比較すると7分の1まで低減している。